

# 第4学年 道徳科 相手の気持ちに寄り添って 【B親切, 思いやり】

学習指導者 好井 佑馬

## 導入 1 役割演技をし、目当てを設定する。【なりきりタイム】

教材文の範読後、代表の子供がお兄さん役、教師が男の子役、その他の子供が「ぼく」役として、男の子が親切を断り、お兄さんが謝った場面の役割演技を全体で行う場を設定した。「ぼく」と同じように、実際に親切な行為を断られる様子を見る体験をし、断られたときの感情を共有することで、よかれと思ってしたことが断られることの不快な感情に気付けるようにした。

親切を断られたら、「せっかく親切にしたのに」と腹が立つと思うのに、お兄さんが男の子に謝ったのが不思議だな。

男の子がお兄さんの親切を断る様子を見ていた「ぼく」の立場で感じた不快な感情と、男の子に謝ったお兄さんの感情を比べて、謝るといってお兄さんの行動の不思議さに気付いて、本時の問いを見いだし、考える意欲をもつ様子が見られた。



お兄さんはどんな気持ちで男の子に謝ったのだろう

## 展開 2 役割演技を通して、お兄さんが男の子に謝った理由を話し合う。

代表の子供によるお兄さん役と男の子役の役割演技を通して、お兄さんが男の子に謝った気持ちを考えていった。役割演技を行った子供や見ていた子供に、感じたことなどを問い、お兄さんが、男の子の気持ちを考えられていなかったことを謝ったのだということをつまえられるようにした。

お兄さんが男の子の気持ちを尊重していない場合の役割演技を行い、実際のお兄さんと比べることで、自分勝手な思いによる優しさではなく、相手の気持ちを尊重する優しさの大切さに気付いていった。



お兄さんは、男の子が自分の力で階段を上りたいという思いを大切にしたいと思う。

## 展開 3 自分が素敵だと思ったところはどこかを話し合う。【素敵ポイント】

お兄さんと男の子の関わりの中で、素敵だと思ったところはどこかを問い、子供たちの考えを「男の子に声を掛けたところ」「助けを断られても謝り、応援したところ」「男の子がお礼を言ったところ」などと整理した上で、最も心が動いたと思うところを選ばせ、その理由を話す場を設定した。

僕だったら声を掛けづらいけど、お兄さんが「手伝ってあげようか」って言っているところが、男の子の気持ちを大切にしているなって思ったよ。



それもいいね。僕は、男の子がちゃんと「ありがとう」って返しているところが、お兄さんの気持ちを受け入れていいと思ったよ。

## 終末 4 本時の学習を基に、これからの自分の生き方について考え、話し合う。

### 【ハートカード】

教材文と同じような男の子を見つけた場合にどうするかという事前アンケートの結果を示し、これまでの自分の考えを振り返ることができるようにした。そして、本時の学習を基に、「これからの自分」と「その理由」という振り返る観点を明示し、学習支援アプリのハートカードに書く場を設定した。

自分がハートカードに書いたことと、ペアの友達の考えのよいところを伝え合うようにすることで、自分のよさに気付く様子が見られた。



今までの自分のことを振り返られていて、いいね。

### 考察 (○：成果, ●：課題)

- 教材文の問題場面の役割演技を行うことで、道徳的問題への関心を高め、本時、考えたいことを明らかにしていくことができた。
- お兄さんと男の子の素敵だと思ったところを話し合う場を設定することで、登場人物の行動のよさを自分との関わりで捉え、実践意欲を高める姿が見られた。
- 対話場面において、対話の目的や対話するよさを共通理解したり、対話後の変容を確認したりすることで、互いに質問し合うなどして、より自分の考えを深める対話につながるだろう。